



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年7月31日

上場会社名 株式会社クエスト

上場取引所 東

コード番号 2332 URL <https://www.quest.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 岡 明男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 上席執行役員 (氏名) 小泉 裕

TEL 03 - 3453 - 1181

四半期報告書提出予定日 2020年8月7日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	2,551	9.2	146	25.3	156	25.9	109	25.9
2020年3月期第1四半期	2,336	5.2	117	36.0	124	34.0	86	34.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	21.16	
2020年3月期第1四半期	16.83	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	6,225	4,639	74.5	896.12
2020年3月期	6,323	4,528	71.6	874.75

(参考)自己資本 2021年3月期第1四半期 4,639百万円 2020年3月期 4,528百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		35.00	35.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		0.00		35.00	35.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,000	1.2	365	0.6	380	0.6	262	0.1	50.63
通期	10,521	2.0	742	0.7	772	0.4	533	55.7	103.01

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	5,487,768 株	2020年3月期	5,487,768 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	310,800 株	2020年3月期	310,800 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	5,176,968 株	2020年3月期1Q	5,168,159 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第1四半期累計期間	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間(2020年4月1日～2020年6月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大による休業要請や外出自粛の影響により企業業績の悪化や個人消費の落ち込みなど、極めて厳しい状況にありました。緊急事態宣言の解除に伴い一部で経済活動が再開されつつありますが、感染による今後の影響については予測が極めて困難な状況となっています。

当社の属する情報サービス業界においては、経済産業省の「特定サービス産業動態統計調査2020年5月分確報」の情報サービス業の項の中から、当社が主に属する「受注ソフトウェア」と「システム等管理運営受託」を合算した業務種類別売上によると、2020年5月は前年同月比5.3%の減少、2020年4月～5月(累計)においても前年同期比2.5%の減少となり新型コロナウイルス感染拡大の影響が急速に表れ始めております。

このような状況の下、現状の新型コロナウイルスの感染拡大、長期化の状況を鑑み、全ての取引先様と従業員の健康と安全が最優先と考え、ニューノーマルな時代に向けた働き方を推進しながら事業環境の整備、最適化にチャレンジしていきます。

今後、新型コロナウイルス感染の波はワクチンと治療薬が開発されるまで繰り返し押し寄せる恐れがあり、先行き不透明な経済が続く中で、テレワークやオンラインによる診療、授業、行政手続きなど、ワークスタイルの大きな変化がすでに世界規模で進んでいます。コロナショック後はグローバルサプライチェーンの再編、社会インフラの整備など、あらゆる業界においてデジタル化が今まで以上のスピードで進み、現在進行中の第四次産業革命や Society 5.0と呼ばれるデジタルトランスフォーメーション(DX)の潮流が更に加速することが予想されます。

当社の顧客企業における環境認識としては、エレクトロニクス業界では、IoT、CPS(Cyber-Physical System)、AIを活用し、顧客からサプライヤーに至るバリューチェーン全体(サービス～製造～流通)をデジタル化しようとしています。金融業界では、店舗ネットワークの見直し等の業務効率化、収益源となる新規サービス開拓、FinTechによるサービスの高度化支援やスマホ決済、キャッシュレス化等の手軽で便利なサービスが拡大しています。エンタテインメント業界では、顧客の嗜好やライフスタイルに合ったアーティストの作品に出合い、感動を共有するデジタルプラットフォームが拡大しています。エネルギー業界では、「5つのD」と呼ばれる、人口減少・過疎化(Depopulation)、脱炭素化(Decarbonization)、分散化(Decentralization)、自由化(Deregulation)、デジタル化・IoT(Digitalization)による業界再編が進行中です。自動車などの移動体業界では、CASE(Connected, Autonomous, Shared, Electric)とMaaS(Mobility as a Service)による100年に一度と言われる変革が起こっています。ヘルスケア業界では、人生100年時代において健康寿命を延ばし増加する医療・介護費用を抑制するため、デジタル化による予防・診断、健康作り、ゲノム医療など、個人に寄り添ったヘルスケアが期待されています。

当社は、こうした環境の変化を新たな成長のチャンスと捉え、経営理念である「技術を探究し、価値を創造し、お客様とともに成長する」に則り、ビジョンとして、「お客様とともにITの価値を高める信頼のパートナー」を掲げています。2020年度からスタートする中期3ヵ年計画としては、以下の4つの重点施策に取り組みます。

① 事業構造の変革

より付加価値の高いサービスを提供すべく、事業構造を変革していきます。基本的な考え方は、成果型かつストック型のクラウドソリューションを拡大していきます。

1) アプリケーションソリューションの拡大

ERP、SCM、CRM、RPA、IoT、ビッグデータ分析、AI等のプラットフォームをベースとして、顧客体験をモデル化したクラウド型の共通業務ソリューションを拡大していきます。

2) インフラソリューションの拡大

顧客のプライベートデータセンターから複数のパブリッククラウドまで、インフラ運用管理を顧客視点で一括してアウトソーシングできるハイブリッド型及びクラウド型統合運用サービスを拡大していきます。また、シリコンバレー等の最先端のセキュリティプロダクトと顧客体験をモデル化した当社の運用サービスを組み合わせたセキュリティソリューションを拡大していきます。

2020年度より商品企画開発のための全社横断的組織体制として、商品企画開発準備室を新設しました。事業部のソリューションプロデューサー、商品のアイデアを持つクリエイター、新技術開発者、マーケターと少数精鋭の商品企画開発チームを作り、デザイン思考で商品企画開発を行います。

② 産業ポートフォリオの変革

顧客体験によるノウハウを集約すべく、ITとの相乗効果が高い産業セグメントであるエレクトロニクス、金融、情報通信、エンタテインメント、公共（エネルギー、鉄道）、自動車、ヘルスケアの7業種にフォーカスしています。また、複雑で不確実、不安定な時代において市場環境変化のリスクを分散すべく、これらの産業セグメントの中で外需と内需向けの事業バランスを図っていきます。

③ 事業体質の強化

事業の営みをデジタルデータとして蓄積し、試行錯誤から学習し、成長し、企業の遺伝子として未来に伝え、進化し続けるデジタルカンパニーを目指し、その基盤となる企業OSに位置付けられるインフラを2025年に向けて整備していきます。

また、技術者がやりがいを持って高度の技術力を発揮し、お客様とともに成長するチームと風土を醸成しています。そのために、次世代を担う人材の採用、人事制度を強化していくとともに、技術者が自分に合ったITプロフェッショナル・キャリアコース（ITスペシャリスト、ITアーキテクト、顧客サービスマネジメント、プロジェクトマネジメント、コンサルタント、ビジネスインキュベーター）を選択し成長できる環境を整備し、プロを極めていきます。

④ 成長するデジタルネットワーク社会に不可欠な新技術の仕込み

ソリューションの付加価値を高めるための技術の仕込みと技術者育成に、売上の2%の投資を継続します。同時に、中長期戦略上必要と考えるソリューション及び技術を補完すべく、業務提携や資本提携を進めていきます。

このような取り組みの中で、当第1四半期累計期間における当社の経営成績は以下のとおりです。

売上高は、前年同期比9.2%増の25億51百万円となりました。利益については、増収効果及びプロジェクトマネジメント強化による採算性の向上、業務改善活動等により営業利益は前年同期比25.3%増の1億46百万円、経常利益は前年同期比25.9%増の1億56百万円、四半期純利益は前年同期比25.9%増の1億9百万円となりました。

セグメント別の経営成績は以下のとおりです。

システム開発事業については、エレクトロニクス分野顧客、金融分野顧客、エンタテインメント分野顧客からの開発案件の増加及びデジタルワークプレイス、ERP、RPA等のソリューションが拡大し、売上高は前年同期比11.3%増の13億82百万円となりました。セグメント利益は増収効果及びプロジェクトマネジメント強化による採算性の向上、業務改善活動等により前年同期比14.1%増の2億34百万円となりました。

インフラサービス事業については、金融分野顧客、エレクトロニクス分野顧客、公共分野顧客へのクラウドサービスやセキュリティサービス等が拡大し、売上高は前年同期比6.6%増の11億61百万円となりました。セグメント利益は増収効果及び業務改善活動等により前年同期比17.7%増の2億1百万円となりました。

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しています。

2. セグメント利益については、全社費用等の配分前で記載しています。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債、純資産の状況

<資産>

当第1四半期会計期間末における資産の残高は62億25百万円となり、前事業年度末に比べ97百万円減少しました。これは主に投資有価証券が3億62百万円増加したものの売掛金が3億13百万円減少したこと及び繰延税金資産が1億27百万円減少したこと等によるものです。

<負債>

当第1四半期会計期間末における負債の残高は15億86百万円となり、前事業年度末に比べ2億8百万円減少しました。これは主に預り金が1億49百万円増加したものの賞与引当金が3億38百万円減少したこと等によるものです。

<純資産>

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は46億39百万円となり、前事業年度末に比べ1億10百万円増加しました。これは主に繰越利益剰余金が71百万円減少したもののその他有価証券評価差額金が1億82百万円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年5月14日に公表しました業績予想から修正は行っていません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,693,425	2,593,795
受取手形及び売掛金	2,218,349	1,905,504
仕掛品	29,269	104,344
前払費用	104,643	129,701
未収還付法人税等	—	1,377
その他	5,533	4,531
流動資産合計	5,051,221	4,739,255
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	22,257	21,595
車両運搬具（純額）	3,489	3,197
工具、器具及び備品（純額）	24,108	22,505
土地	376	376
リース資産（純額）	12,800	12,000
有形固定資産合計	63,031	59,676
無形固定資産		
ソフトウェア	18,147	16,454
その他	5,643	5,643
無形固定資産合計	23,791	22,098
投資その他の資産		
投資有価証券	695,766	1,058,551
関係会社株式	76,399	76,399
長期貸付金	7,200	6,600
長期前払費用	46,367	27,715
繰延税金資産	233,766	106,473
その他	125,521	128,641
投資その他の資産合計	1,185,020	1,404,380
固定資産合計	1,271,843	1,486,156
資産合計	6,323,065	6,225,411

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	309,306	324,078
リース債務	3,333	3,369
未払金	78,267	164,693
未払費用	162,530	115,964
未払法人税等	86,198	18,252
未払消費税等	186,259	149,705
前受金	35,926	59,575
預り金	31,471	180,553
賞与引当金	591,749	253,702
プロジェクト損失引当金	240	432
その他	—	236
流動負債合計	1,485,283	1,270,565
固定負債		
リース債務	10,913	10,057
退職給付引当金	295,055	302,311
役員退職慰労引当金	3,275	3,275
固定負債合計	309,244	315,643
負債合計	1,794,527	1,586,209
純資産の部		
株主資本		
資本金	491,031	491,031
資本剰余金		
資本準備金	492,898	492,898
その他資本剰余金	1,985	1,985
資本剰余金合計	494,884	494,884
利益剰余金		
利益準備金	29,890	29,890
その他利益剰余金		
別途積立金	830,000	830,000
繰越利益剰余金	2,710,750	2,639,094
利益剰余金合計	3,570,640	3,498,984
自己株式	△217,218	△217,218
株主資本合計	4,339,336	4,267,680
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	189,200	371,521
評価・換算差額等合計	189,200	371,521
純資産合計	4,528,537	4,639,201
負債純資産合計	6,323,065	6,225,411

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	2,336,946	2,551,583
売上原価	1,959,066	2,114,139
売上総利益	377,879	437,444
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	99,321	104,168
役員報酬	18,292	37,506
賞与引当金繰入額	21,153	24,538
退職給付費用	2,900	3,071
減価償却費	4,099	3,488
賃借料	23,906	23,896
その他	91,075	94,044
販売費及び一般管理費合計	260,749	290,716
営業利益	117,130	146,728
営業外収益		
受取配当金	7,623	8,993
その他	113	1,348
営業外収益合計	7,736	10,341
営業外費用		
支払利息	186	152
その他	0	0
営業外費用合計	187	152
経常利益	124,680	156,917
税引前四半期純利益	124,680	156,917
法人税、住民税及び事業税	547	552
法人税等調整額	37,143	46,828
法人税等合計	37,690	47,380
四半期純利益	86,989	109,537

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。